



No11. 2022. 1. 28

先日、静岡に出かける用事があったので、懐かしさから卒業した小学校に寄り道をしました。私が卒業した小学校は静岡市の安倍川のほとり、最も下流にある川原小学校といいます。卒業後まもなくしてお引越しをしたので、40年ぶりの景色でした。安倍川の土手に上がると雄大な富士山が私を見下ろし、逞しい松の木、飽きない川の流れは当時と変わらずそこにありました。そして、校庭と校舎が見渡せます。こんなに小さかったかな…、あの頃は広く広く感じたのに。たくさんの思い出が一気に加速してよみがえりました。

安倍川が枯渇していたある日は、担任の先生の突然の提案で次の授業は川の反対側まで横断することになったのですが、地層を観察したり、石を拾ったり、何曲も歌いながら歩いたりしました。また、学校での宿泊キャンプはテント泊を断念して校舎の中に泊まるほどの大雨になってしまい、安倍川も濁流になり真っ茶色になっていました。しかし、班ごとに浮き輪をつなげて作ったイカダでの川下りは、諦めずになんと河原で全員が「正露丸」を飲みイカダの川下りを実行したのです！それはそれは、ドキドキわくわくしました。

私はこの学校の第一回卒業生 144名のひとり。当時新設学校で私たち 4年生が最上級生でした。それから3年間最上級生として自分たちの学校をつくるという珍しい環境に巡り合いました。その時の先生方おとなも私たち子どももやりたいことにこだわりをもち諦めない日々を確かに生きていた！恵まれた自然環境の中で目の前の状況に合わせていつだって本気で楽しんでいました。その経験は今の生活に活かすことができると改めて感じています。

ぴっぴの朝、薪割を一緒にしている天音ちゃんが「なんでたいそうできないの？」「森の中でやっちゃう？」「つる広場に鉄棒とかいろいろ持ってきてできるんじゃない？」とたいそうをやりたい気持ちといろんなアイデアをぽんぽんと軽やかにお話をしてくれました。難しく考えないで…と伝えられているようで、感心したのと同時に勇気をもらいました。どんな状況でも諦めずに子ども達と今を大切にして生きたい…おもいっきりカラダをつかったときの子どもたちのスッキリした笑顔が浮かんできます。

景色を巡る静岡の旅のあと 3人の娘たちは口々に「静岡にまた行きた～い」「静岡が大好きになっちゃった」「気持ちがよかった」などと言っています。私をつくった大好きな心の故郷です。なんだかとても嬉しくなりました。娘たちにも心の故郷ができているといいな。

：恵理

# 森のみちくさ おいしいお話 2月

暦の上ではまもなく立春。その言葉を聞くだけでとても喜びますね。まだまだ凍ついた氷の森ですが、確実に春の時間は長くなり、日の光も強くなっていきます。2月半ばにもなれば雪のとけた日当りのよい斜面ではフキノトウの姿がみつけられるかもしれません。もしみつけたら、少しきな春を食卓で味わってみてはいかがでしょう。他にもこの季節、ピッピの森にもたくさん生えているクマザサ。新芽を二どもたらが食べて遊んでいますが、干して粉にして、お茶にして、クッキーにしたりするとそもそもほんのり緑でとても爽やかでおいしいです。まだしばらく寒い日々には続きますから、自然からの恵みをちょびりおさわかれてもらって冬を元気にすごしていきながね！



1. ピザにパスタにふきのとうのオイル漬けを小さくバラして混ぜる
  2. パセリメザンチーズをパラパラふりかけてできあがり
- ほろ苦い、やさしい春の味。  
ハードのパンやピザ、グラタン  
白身魚料理などにもよく合いますよ♪ ゼビド

- <作り方>
- ・花のあまり開いていないつぼみの状態のフキノトウを採る
  - ・さっとゆでて、塩でもぐ
  - ・びんにフキノトウをいれ、塩適量とオリーブオイルをひたひたにして完成！